慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	プロジェクト科目報告会
Sub Title	
Author	伊澤, 栄一(Izawa, Eiichi)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2008
Jtitle	活動報告書 Vol.2, (2008.) ,p.54- 54
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20090300-0054

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

13 プロジェクト科目報告会

開催日　2009年2月2日
企画班　全体
企画者　杉浦章介
講演者　プロジェクト科目履修者

平成21年2月２日、大学院棟334号室にて、プロジェクト科目の報告会が開催された。プロジェクト科目は、通年の大学院履修科目であり、通常の講義形式の科目とは異なる。履修する学生が主体的に実験に取り組み、１年間の成果の発表を以って単位の認定となる。本科目は、本人文GCOEの前進である21COEと並行する形で立ち上げられた「魅力ある大学院教育イニシアティブ」の主軸科目として開講され、発展してきた経緯があり、準備期間まで含めると今年度で４年目となる。本年度は計５つのプロジェクトが開講され、報告会では10名の履修者が発表を行った。内容は、ヒトの臭覚による推論能力の検討から、生得的な言語基盤の検証、脳活動解析、論理学、データベース構築など、昨年よりも多岐に渡るものであった。数年来継続することでピンポイントな検証に至ったテーマや、今年度から新規に学生が考案したテーマも含まれており、いよいよ分野横断的な学生主体の科目となってきた感があった。この報告会は、成果発表会と銘打ってはいるものの、整ったデータの発表を単に求めるという場ではない。形となったデータではなくとも、必ずしも自身の専門ではない実験テーマに取り組んだその過程を、異分野の教員と多面的に意見交換を行うことで、実験として構築させる方法論を学ぶ場としての役割を帯びてきた気がする。学生のこのような体験は、成果としては目に見えにくいかもしれないが、開講当初から履修院生らが積み重ねてきたものが、科目の特色として根付きつつあるように感じた。分野横断的な本教育拠点の特徴を生かした自由度の高い科目として、来年度以降もさらなる展開が期待されるだろう。

（伊澤栄一）